



思いやりと生きる力

童心会だより12月



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔 十人十色（じゅうにんという）・百人百様（ひゃくにんひゃくよう） 〕
～ すべての多様性に伴う人々への包括支援 ～

現代の世の中で、とても大切にしなければならない言葉は、
All diversity and inclusive support（すべての多様性に伴う包括的支援）です。

diversity（多様性）という言葉は、
1970年～80年代における国籍・文化・宗教・性別・障がいといった特徴・性質などの多様性の尊重から、
近年では価値観・生き方・感情表現・幸福感といった、
より内面的心理社会的な多様性の理解へと考え方を広げています。

だから私たち（社福）童心会は、
「すべての多様性に伴う人々への支援、十人十色（ひとりひとりがみんなちがうこと）」
という考え方をしています。改めて考えて見ますと、私たちが本当に長い間、求め続けてきた
「保育目標（人間教育の原点）”思いやり（慈悲）と生きる力（智慧）”とは、
”All diversity and inclusive support”の中にあるのかもしれません。

私たちは2000年以上の永きに亘り、
「自然崇拝・畏怖・畏敬・八百万の神（多様性）」の思想が底辺にあって、
自敬・自尊心（自分を大切にできるヒト）を育て、
自分が好き・生きている喜びを感じられる人々を育ててきました。
この偉大なる宇宙を創り給うたSomething great（偉大なるお人）の存在は、
この広大なる自然を恐れ敬う心を育て”人としての生きる道・道理”を伝え続けてくれました。
その訓えの底辺には、「気候・風土・文化・歴史・宗教」に則った生き方が訓え伝えられていたのです。
それが狩猟採集民族の文化・歴史・宗教になったのであろう、と確信しています。

それが私たち（社福）童心会の「人の成り立ちの歩みの木」のモデルとなり、
人間教育の最終的な目標になりました。



笑ったか ずー 一番
遊んだか ずー 一番

だっこされたか ずー 一番
でかけたか ずー 一番

やさしくされたか ずー 一番
チャレンジしたか ずー 一番

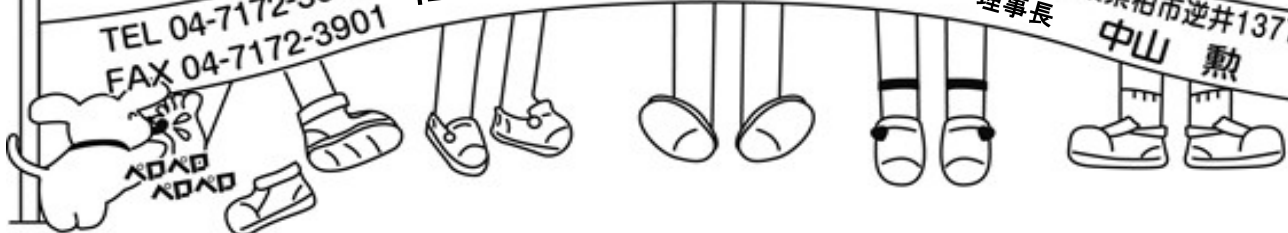


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL http://doushinkai.jp

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



Human healthcare goal となり、
「自分を生きる・みんなと生きる・助けあって生きる・世のために生きる」
ことが目標となったのです。

改めて私のこの人間教育の歩みをふり返ってみますと、1970年代以降の核家族化によって、
地域社会・家庭・子ども社会(ガキ大将)・学校が担ってきた「社会教育力」が、
目の前で崩壊したことが私の大きな転機になりました。

私は、「では次はどこで人間教育を行うべきか」という問いを立てました。
それが、茨城県にいた頃の筑子保育園の6つの機能と役割でありました。

- | | |
|-----------|----------------------|
| ①パーソナル・ケア | ④保育ソーシャルワーク |
| ②ファミリー・ケア | ⑤保育所からはじめる地域コミュニティ創り |
| ③メンタル・ケア | ⑥未来の親づくり |

今ふり返って考えてみますと、この歩みは(社福)童心会の
「五感と六識を刺激する0歳からの人間教育」に繋がっています。
即ち、五感を通して感覚的に外界の違いを感じとり、
六識によってその違いを知識と意識(心)に分けて意味づけを行う考え方は、
人間が他者と世界の多様性を理解する第一歩です、とChat GPTは解説をしています。

この視点はハーバード大学子どもの発達センター(CDC: Center on the Developing Child)が唱える
「Serve & Return(応答的やりとり)」理論と重なり、乳幼児期の情動的応答が、
のちのレジリエンス(回復力)を形成するという科学的知見に一致するというのです。
即ち人間性(Humanity)を高める人間教育とは
「乳幼児期からの自分を創り、人を創り、社会を創る営みである」ことなのです。

私たち(社福)童心会の実践はまさに
「人間学を人間科学の融合による”生きた哲学”である」という評価を受けています。
それは保育を超え、「人を育てる文化の再生」を目指す社会的使命を帯びています。

私たち(社福)童心会の社会的機能と役割の一つは、
茨城県にある筑子保育園の時代から「保育所から始める地域コミュニティ創り」でした。
保育所が家であり、家族であり、社会であるという理念は
”失われた社会教育力”を再構築するための手立ての一つでした。
しかし、私の考えた”五感と六識を刺激する0歳からの人間教育”の主眼は、
あの時代から芽生え始めてきた「不適切な養育(Child mal-treatment)の予防的人間教育」だったのです。
これらをアメリカのハーバード大学子ども発達センター(CDC・2006年)は実証してくれたのです。

「乳幼児期の経験が生涯にわたる健康・学習・市民性の基盤をつくる」

今日もまた一日一生を念じながら
すべての仲間たちの Well-being ”!! 幸せになろうね！幸せになろうよ！”と
祈り願い続けていくつもりです。
どうぞいつまでもお幸せに！良い新年をお迎え下さい。

令和7年 12月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲